

4 児童の「できた!」「分かった!」の質を高める学習過程の一場面 (8 / 8時)

教師と児童のやり取りの詳細

学び合う段階において、自分が調べた観点から導き出した結論やその過程が妥当であるのかを検討し、考察の視点を広げていく場面。

これまでの学習で、数直線や表、柱状グラフなどを使って、「いちばん重い重さ」や「平均」、「割合」などの様々な観点で比べてきましたね。

結局、東小屋と西小屋では、どちらの小屋の方が重い卵がよく産まれたといえますか？

西小屋だと思います。

ぼくも同じです。

私は、東小屋だと思います。

	東小屋	西小屋
いちばん重い重さ	67 g	74 g
いちばん軽い重さ	48 g	45 g
重さの平均	57.5 g	58 g
いちばん個数の多いはんい	55 g 以上 60 g 未満	50 g 以上 55 g 未満
55 g 未満の個数の割合 (%)	25%	約46%
55 g 以上 65 g 未満の個数の割合 (%)	約63%	約31%

表のいちばん下の枠を使って、新たな観点を児童に考えさせてもいいですね。

そうですね。東小屋と西小屋に分かれますね。では、初めに「西小屋」と考えた人に、その理由を聞きたいと思います。

重さの平均で比べると、西小屋の方が重いからです。

いちばん重い卵は 74 g で、西小屋にあるからです。

なるほど。確かに、重さの平均で比べると西小屋の方が重く、いちばん重い卵も西小屋から産まれていますね。では、西小屋の方が重い卵がよく産まれたと結論付けていいですか？

私は違うと思います。重さの平均で比べると、確かに西小屋の方が重いけど、いちばん個数の多い範囲で比べると、東小屋の方が重い卵が多いので、東小屋の方だと思います。

付け加えます。そのことに加えて、55 g 以上 65 g 未満の個数の割合でも東小屋の方が大きいので、東小屋の方が重い卵がよく産まれたといえると思います。

今の意見のように、1つの観点だけを見て判断するのではなく、いくつかの観点を合わせて判断していくと、より分かりやすいですね。

このことを生かして、この表から分かることやこれまでに調べてきたことを見直し、どちらの小屋の方が重い卵がよく産まれたといえるのかを調べてみましょう。

- ・見通しの段階で、「どの観点で比べたのか」「結果はどうなのか」と調べる内容を明確にすると、円滑に自力解決へ進むことができます。どちらか一方の内容で書き進めている場合には、「どの観点で比べましたか?」「その観点ではどちらが重いのですか?」といった助言をすることで学びを深めることにつながります。
- ・多くの児童の気付きを拾うことが大切です。結論について異なる観点や立場などから捉え直してみたり、誤りや矛盾はないかどうかの妥当性について批判的に考察したりする機会となります。また、複数の観点を関連付けて調べ、考察する取組を価値付け、このように取り組む姿を学級全体に広げていくようにすることが大切です。
- ・身の回りには、多くのデータがあふれています。この単元を通して、データの妥当性について批判的に考察することや、多面的に見て判断していく力を身に付けさせることが大切です。